

# 野菜の展望

今月は秋冬作型から春作型へと切替わり、春野菜や山菜類が気温上昇とともに本格的に出回る時期となります。しかし、冷え込みなどの気象条件に作況が左右されやすく、春先特有の三寒四温の影響が出やすい時期でもあるため、天候によっては入荷が不安定になることもあり得ます。

根菜類の大根は千葉産を主体として九州各地から春大根の入荷があります。千葉産はトンネル栽培主体で、九州産は春大根へと作型が移行します。人参は愛知・徳島産主体の入荷で、愛知産は平年並みで中旬に終了する見込みです。徳島産新人参は生育も順調で、3月10日前後からの入荷見込みです。蓮根は石川産主体に茨城産の出回りとなります。季節商材の筍は徳島産が裏年に当たり、石川・鹿児島・福岡・和歌山産は表年となります。徳島・鹿児島産中心の入荷で、上旬頃からは和歌山産も加わる見込みです。

果菜類の胡瓜は高知産主力に群馬・愛知産の入荷で、気温上昇とともに増量となる見込みです。南瓜はニュージーランド産の輸入品と沖縄産の入荷となります。茄子類では中茄子が高知主体に愛知、長茄子は熊本・福岡からの安定した入荷があります。トマト・ミニトマトについては愛知主体に熊本産の入荷となり、ピーマンは高知・鹿児島産主力の入荷です。豆類ではインゲン・キヌサヤ・砂糖エンドウ・スナップ豌豆・そら豆等の入荷があり、主要産地は高知・鹿児島・愛知・静岡となりますが、平年より作柄が悪く、不安定な入荷となることが予想されます。

葉茎菜類の白菜は秋冬作型の茨城産が上旬で終了となり、その後は熊本産主力に九州各地の春作主体に兵庫産冷蔵白菜の入荷となります。キャベツは愛知産主体に中旬までは九州各地より入荷が見込まれます。葱は結束物が大分・鹿児島産が、5kgバラについては埼玉・群馬産主力に平年並みの入荷が見込まれます。中下旬からは春葱も加わる予定です。ほうれん草は福岡・静岡・岐阜・群馬の各産地の入荷で、比較的順調な入荷と思われます。落は愛知産促成物の入荷で、今後は徐々に増量となります。レタスは兵庫産(淡路島)主体に茨城・長崎産の入荷で、各産地共に安定した入荷が見込まれます。ブロッコリーは高知・愛知産を主体に九州各地からの入荷となります。アスパラガスは長崎・高知・福岡産の春芽を主体にメキシコ産の入荷で、国内各産地が出揃って入荷量は増加傾向となります。季節商材である菜の花は徳島・高知産の入荷ですが、冷え込みの影響が残り、昨年と比べて少なめの入荷となる見込みですが、気温の上昇と共に出荷量が増えてきます。

菌茸類では椎茸が菌床物主体に露地原木物の出回りで、石川産主力に長野・富山・新潟・兵庫・徳島からの入荷があります。露地原木物は気温の上昇に伴い、潤沢な入荷が予想されます。なめこ・えのき・しめじ類・舞茸等も順調と思われます。

土物類の馬鈴薯は北海道・鹿児島産の入荷となり、北海道産は今年度産は大不作で貯蔵量が少なく、早期終了が見込まれます。鹿児島産は離島物が入荷しますが、こちらは玉太り良好で、太物主力に平年並みの入荷の見込みです。玉葱は北海道並びに静岡・愛知・長崎産等府県産の新玉葱の入荷で、北海道産は過去に無い不作となっており、出回り量少なく高単価が続きます。牛蒡は青森産主力の入荷で、春掘り物の出荷は下旬頃の見込みです。生姜は高知産主体に中国産の入荷となります。数量は前年並みの予想です。高知産新生姜は2kg箱で3月上頃にスタートの予定です。3月は春を彩る季節商品を中心に、ひな祭りや春のお彼岸等各種イベントに併せた多彩な販売の企画立案の上、販売拡大にご協力をお願い致します。

《野菜第三部部長 杉本智則》

# 果実の展望

今月の果実は中晩柑を中心に苺や、数量は少ないものの施設物のメロン・西瓜・枇杷等が出回ってきます。

みかんは徳島産主体の入荷で終盤を迎えます。徳島産は裏年ということで、入荷量は減少と予想されます。

中晩柑の主力品種である伊予柑は愛媛産が前年の2割減少という少ない出回りとなり、中心階級は2Lサイズで、上旬からは弥生紅の販売も始まります。

八朔は和歌山産主力の出回りで、L玉メインの玉流れとなります。前年より少ない入荷予想です。上旬からは紅八朔やゆら八朔の入荷が開始する見込みです。

その他にも、清見・サンフルーツ・甘夏・アンコール・はるみ・せとか・はまさき等の多種類の柑橘の入荷を予定していて、順調な入荷予想です。

いちごは二番果から三番果への移行時期を迎えます。主力産地の愛知・九州産は安定した入荷が予想されます。

りんごは青森産主力で、サンふじ・王林・ジョナゴールド等が40玉・46玉中心の玉流れでの入荷となります。

瓜類は静岡・高知・熊本産のアールスメロンを中心として、下旬からは熊本産のアンデスやパイヤ等の入荷が見込まれます。西瓜は熊本・沖縄・高知産の入荷予定です。いずれの産地も作付面積の減少と天候に左右されやすいことから、日々増減のある入荷が予想されます。

長崎産ハウス物枇杷の初出荷は寒さの影響で若干遅れるものと予想され、下旬からの入荷となりそうです。入荷量については前年よりもやや増量となる見込みです。

輸入果実のバナナはフィリピン・南米産ともに入荷は不安定です。引き合いも強く価格はやや高値推移が予想されます。オレンジはカリフォルニア産ネーブル種の入荷。アメリカからの入船が不安定につき例年よりも高値推移。他にもカリフォルニア産ミネオラ・ダブルマーコットもオレンジ同様高値推移。グレープフルーツはイスラエル産ルビー種、ホホワイト種の入荷。入船遅れで不安定な入荷が続く、例年よりも高値推移。レモンはカリフォルニア産で小玉中心の入荷となります。オレンジ同様入荷不安定で高値推移。フィリピン産パインは各ブランド小玉を中心に安定した入荷が見込まれます。その他果実では、メキシコ産ハネジューメロン、チリ産レッドグローブ、トンプソンシードレス等も順調な入荷となる見込みです。トロピカル関連ではマンゴー・アボカド・パイヤなど豊富な品揃えで需要に応えます。以上、今月も何卒宜しくお願い申し上げます。

《果実部部长 荒木 智》